

サバトラ模様

布宮慈子やすこ

ときどきは籠より出して可愛がりをれどそのリス死なせてしまふ

眠るごと動かぬリスを手に載せて娘は学校に行かないと言ふ

空洞を見透かすやうに同僚が生まれし猫のこと持ち出だす

もらひ手がなければ残りの子猫たち連れてゆくとふ町田の東急ハングスへ

見に行つてやはり子猫をもらひきぬ梅ヶ丘より 十一月 雨

一匹だけサバトラ模様でありし子を家に迎へて回り始める

十歳の娘は風呂に入れると言ひ〇歳の猫抱かれて入る

うれしいとき悲しいとき雷に怯えるときも猫と過ごしき

いつの間にか立場が替はりその振る舞ひ兄のやうなる猫となりなき

娘と共に暮らす人の現れしころ猫は十九年の生を閉ぢたり